

平成 22 年 4 月 15 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2010

課題番号：19520581

研究課題名（和文） 入唐僧慧萼の求法活動に関する基礎的研究

研究課題名（英文） A basic study of the Japanese Monk, Egaku in Tang Dynasty

研究代表者

田中 史生（TANAKA FUMIO）

関東学院大学・経済学部・教授

研究者番号：50308318

研究代表者の専門分野：日本古代史

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：慧萼、東アジア史、日本古代史、交流史、入唐僧、在唐新羅人、唐商人

1. 研究計画の概要

9世紀の日唐交流で活躍した日本僧慧萼について、注釈を付した関連史料集と関連文献目録を作成し、加えて研究論文において慧萼の足取りの全体像を明らかにすることで、内外で高い関心が示されながら、各国・各分野からの部分的・分散的研究に終始する慧萼研究の現状を克服し、広く共有できる東アジア史の貴重な研究素材を活用しやすい形で提供する。

2. 研究の進捗状況

(1) 慧萼関連資料の収集と慧萼の活動地を確定するため、中国において調査を行った。その結果、これまで主に以下のような成果が得られた。

浙江省海寧市の安国寺跡に、慧萼がこの寺を訪問した同時代の経幢を確認した。

慧萼が蘇州において立ち寄った唐代の武丘東寺が現蘇州市靈岩寺内の東側に比定できることを確認した。

慧萼も利用したとみられる会昌の廃仏後の明州開元寺の位置がほぼ特定できた。

慧萼が利用したと思われる塩官から長江までの運河が確認できた。

(2) 慧萼関連史料を収集し、注釈を付した史料集を作成中である。この過程で得られた主な成果は以下のとおりである。

中国江南地方志に、これまで紹介されていなかった慧萼に関する記述を確認できた。写本調査によって、これまで広く流布してきた『白氏文集』の慧萼跋文の文字を、修正することができた。

慧萼跋文を載せる『白氏文集』の日本への渡来について、これまでの通説を修正できる発見があった。

最近公表された石山寺所蔵「大師文章」の写真版などにより、慧萼と関連する『高野雑筆集』下巻所収「唐人書簡」について、文字・内容に新たな知見が得られた。

史料を総合的に分析すると、慧萼の日唐往来は計5回以上を数え、その回数は、当時の日本人としては突出していることが確認できた。

3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

(理由)

本研究に入る前から、事前準備を行っていたこと、ならびに中国で様々な研究者・研究機関の協力を得られたことによる。

4. 今後の研究の推進方策

これまでの調査・研究成果を報告書にまとめる。なお、韓国の文献目録の作成だけ作業が遅れており、新たに韓国人研究者の協力を要請することも検討している。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表](計2件)

田中史生、入唐僧惠萼と白氏文集、鄭州大学外国語学院・浙江工商大学日本文化研究所主催国際シンポジウム「東アジアにおける中原文化の受容と展開」、2009年8月29日、鄭州大学（河南省鄭州市、中国）

田中史生、入唐僧惠萼からみた東アジア
交流 遣唐使後の日唐交流、浙江工商
大学日本文化研究所主催遣隋使・遣唐使
1400周年記念国際シンポジウム、2007
年9月15日、杭州湾大酒店(浙江省杭州
市、中国)

〔図書〕(計4件)

鈴木靖民、高志書院、円仁とその時代、2009
年、265 - 281

田中史生、筑摩書房、越境の古代史:倭と日
本をめぐるアジアネットワーク、2009
年、245

金健人、遼寧民族出版、中韓古代海上交流、
2007年、95 - 109

〔その他〕